

心音をつなぐということ

藤小学校 六年 金浦 琴音

今から七十九年前、昭和二十年一九四五年八月六日午前八時十五分、一発の悪魔が空から舞い降りて、その悪魔は広島を一瞬にして地獄へと追いやりました。

私の曾祖父と祖父が戦争体験者で、当時の辛い話を色々聞き、小さい頃から平和と戦争について興味を持っていました。しかし、そこまで深く入り込みたいとは思っていませんでした。ところが、去年の一月頃、母が靖国神社に行ってきたという話を聞き、私は過去に起きた戦争の現実と悲惨さを改めて学んでみたいと思いました。

そこから私は戦争について、もっと深くまで知りたいと思うようになり、靖国神社に参拝し、その中の遊就館に学びに行ったり、埼玉ピースミュージアムに行ったりもしました。ちょうどその頃、鶴ヶ島市で広島市平和記念式典児童派遣事業という広島市の平和記念式

典に参加できる事業があることを知りま
した。早速、応募し念願の広島に行くこ
とができま

した。広島では、私の想像以上の現実
が待ち受けていました。人間かもわか
らないほどの傷、幽霊のように手を出
し、よろめきながら叫ぶ人々の集団、
血だらけになりながらも家族を探す人、
バラバラになった建物、広島で目にし
たことすべてが目を疑うようなこと
で、本当に七十九年前の広島なのかと
思わず絶句し、同時に最初は受け止め
られなかった当時の広島、島の惨状も
すべて受け止められました。しかし、一
つだけ心に引かかるものがありました。
それは原爆死没者慰霊碑に刻まれている
「安らかに眠って下さい 過ちは繰返
しませぬから」という言葉です。太平
洋戦争などで日本は確かに戦争をし、
たくさんの命を奪ったことは事実です。
しかし、原子爆弾を落とし広島から平
穏な日常を一瞬にして奪い去ったのは、
ほかでもないアメリカという国です。

それなのになぜ「過ちは繰り返しませぬ」と日
本人が死没者にいうのか、私はとても不思議
に思いました。
そこで、私はその言葉の意味について調べ
てみました。調べた結果、すべての人々が死
没者の冥福を祈り、戦争という過ちを二度と
繰り返さないことを誓う言葉であり、全人類
の平和と共存を願い、真の世界平和を実現す
るという「広島」の思いが刻まれている意味
だということを知りました。このことを知り、
私はスッキリしたと同時に、私の頭の中に「
生きる」という言葉がよぎりました。一九四
五年頃の広島や日本全体では生きたくても生
きられない人がたくさんいて、毎日を共に生
きるはずだった大切な人の命が容赦なく奪わ
れる時代でした。現在は平和で穏やかな時代
になりましたが、一方では多くの「自殺者」
がでてくるようになってきました。

戦争中には、私とそれ程年齢が変わらず、
この先の未来に夢と希望を持った多くの幼い

命が奪われました。沖縄、東京や長崎、そして、広島でも、数えきれないくらいの多くの命が失われました。そのような混乱の中でも日本中の人々が必死に毎日を生き抜くために頑張り、命を繋いできたから、今の私たちがいるのです。

今回、平和記念式典に参加することができ、平和ということがどんなに大切なのかを改めて知ることができました。そして、私たちが心音を鳴らしているということが、遥か昔からご先祖様達が心音を守り続けてきた証なのだということを知ることができました。だからこそ私は、どんなに苦しいことがあっても、決して心音を途切れさせてはならないと感じました。そして、世界中の人々も私達と同じように、家族や友人がおり、大切な命を繋いできた同じ仲間だということを理解し合うことこそが、私達にできる「平和への一歩」なのだと感じました。